

練馬労連第22回定期大会 安倍政権打倒へ 草の根の運動の先頭に!労働組合の出番



開会あいさつをする金田議長

練馬労連は10月18日に第22回定期大会を開催しました。

大会は、安倍政権による国民不在・憲法無視・戦争する国づくりへの暴走のもと、練馬から平和、憲法を守る取り組み、原発の再稼働、労働法制改悪、医療介護全面改悪法、消費税増税反対などの一地点での共同のたたかいについて、また、JAL 不当解雇撤回のたたかい、区内では松本さん不当解雇撤回裁判を始めとする争議支援のたたかいの、総括と方針について提案討議を行いました。

安倍政権による「秘密保護法」の強行、「医療介護法総合法」の強行、「集団的自衛権の行使容認」の閣議決定強行、沖縄・辺野古新基地建設の実力行使、原発再稼働への「条件整備」、労働法制改悪法案の再上程などの悪法の強行と広範な国民からの徹底した反対のたたかいは情勢を新たな段階へと進展させつつあります。

大会は財界・大企業中心、アメリカ言いなりの政治を転換させ、労働者、国民の暮らしと生活を守り、希望が持てる社会を作るために「安倍政権の打倒こそが求められて

いる」との決意に満ちたものになりました。また、今こそ、たしかう労働組合・練馬労連の出番であることを一層、自覚する大会になりました。

大会は提案されたすべての議案と大会宣言を採択し、以下の役員を選出しました。(定数に達していない常任幹事と会計監査は大会後の常任幹事会で選出)

来賓は東京地評・練馬区労協・日本共産党練馬区議団・東京芸術座より参加があり、練馬全労協のメッセージが紹介されました。

争議団からCU練馬の松本さん、JAL争議団の宍戸さんから訴えがありました。



JAL争議物販も

役職名	氏名	組合名
議長	金田 安夫	都教組練馬支部
副議長	鎌田 義昭	東京土建練馬支部
副議長	伊藤 悦子	CU東京練馬支部
副議長	千田恵美子	健康文化会医療労組
副議長	吉澤 利夫	郵政産業ユニオン練馬支部
事務局長	桑原 研二	東京土建練馬支部
事務局次長	阿部 弘明	CU東京練馬支部
事務局次長	唐澤 一喜	東京土建練馬支部
会計	岸田 幸雄	都教組練馬支部
常任幹事	千田 国広	東映動画労組
常任幹事	佐藤 康尚	都教組練馬支部
常任幹事	栗原 新蔵	年金者組合練馬支部
常任幹事	市瀬 正樹	CU東京練馬支部
常任幹事	杉江 和海	福祉保育労向山保育園分会
常任幹事	渡辺 直樹	東京土建練馬支部
会計監査		
特別常任幹事	中井川齊至	

発揮した組合の存在、団結の力で前進できた

《練馬労連第22回大会の討論より》

民営化問題で臨時職員説明会を開催

《公共一般・練馬支部 住友敏子さん》

練馬区上石神井保育園の民間委託にあたり、公共一般の要求で、非正規職員に対し、3回の説明会を開催させることができた。雇用形態が一本化し、交通費の実費支給、雇用期限(現在6ヶ月)が1年となるなど、臨時職員の人たちがとても喜んでいる。年休については、これまでの経験年数が引き継がれなかった。



悪となっている。また高齢者の65%が貧困だが、国民年金は1.5%削減され、現在6万3960円で生活しようとしても出来ない状況だ。30年後には5~6割削減は許されない。また、来年から年金が一元化を待って、年金の株式運用することが議論されているが、大切な年金基金の株式運用は絶対に認めない。無年金、低年金者が1千万人いる。「私の一言」を集め、言葉の力で運動を強めたい。現役世代が受給するときに3~5割だ。これでは生活出来ない。年金制度と暮らしを守れの運動を続けていく。



行き届いた教育行政求めてたたかう

《都教組練馬支部 吉田良さん》



安倍政権の元で、教育を根本的に変質させる法律や政策が行われている。今年6月には、「地方教育行政法」を改悪して、首長が「大綱」を作るようにした。練馬議会でも、この問題でカンカン諤諤やっている。国家に売り渡して行くか、子供たち

のための教育にするかのつば競り合いの情勢となっている。昨年の「はだしのゲン」の撤去問題は、区民の力ではね返す戦いができた。ゆきとどいた教育を求める署名、10年以上続けている。30人学級の実現、教育費も無償化の求めている署名の取り組みをお願いしたい。12月5日、三上満さんと呼んで「いま本当の教育を求めて」という集会が行われる。皆さんの参加で、一緒に教育を守る運動の結集点とした。

「年金制度と暮らしを守れ」の大運動を

《年金者組合練馬支部 栗原新蔵さん》

貧困と社会保障、生活で訴えたい。日本の子供の貧困率は16.3%、一人親世帯では55%が貧困で、経済破綻したギリシャでさえ貧困率は2割であり、先進国で最

55周年・節目の年に拡大と運動の発展を

《東京土建練馬支部 上原誠さん》

東京土建は、賃金引上げ・産業民主化の運動とともに、昨年に引き続き、①消費税増税、②社会保障改悪、③TPP参加、④原発再稼働と憲法改悪を「国民的4課題」として反対の運動に取り組んでいます。



消費税増税や社会保障改悪に反対する区内の運動を強めるとともに、今年度は、「集团的自衛権を考える練馬の会」や「労働法制の改悪に反対する練馬の会」の発足に参加し、学習を強めるとともに、区内世論の構築のため、練馬労連・練馬社保協・区内民主団体と協力し宣

伝行動の一層の強化をはかってきました。

賃金運動では、重層下請構造の中で実際に労働者が手にする賃金は微増にしか過ぎません。都内でも6自治体に広がった公契約条例の制定がどうしても必要です。引き続き公契約条例を練馬区で実現させるために引き続き奮闘していきます。アスベスト被害者の全面救済とアスベスト被害の根絶をめざして国と製造企業を相手に建設アスベスト訴訟を現在、東京高裁で闘っています。引き続きご支援をお願いします。

55周年を節目の年として7000人支部回復に向けた組織拡大運動をすすめて、練馬労連の仲間とともに全力をつくしていきます。

郵政民営化7年「サービス」も「労働条件」も後退…非正規なくす運動を

《郵産業ユニオン練馬支部 吉川利夫さん》



練馬は4局ある。今の取り組みや情勢について発言したい。民営化になって、7年、職場がめっちゃめっちゃで、大変な状態になっている。民営化される時、国会で全国ネットワークを維持する、労働

条件を維持すると決議されたが、守られていない。練馬区内の話をするとうるさく取りながら、遅滞されている。これは練馬だけではない。本来のサービスを手抜きしている。労働条件についてもきわめて悪質になっている。ボーナスも50万円の減額が行われている。来年秋には株式上場する。更なる人減らしと人件費削減の動きを強めている。一般職(年間400万)非正規労働者(年間300万)の労働者で労務をまわし、年間6000億円削減され、国会決議がどんどん反故にされている。こうした中で非正規労働者の均等待遇を追求してきた。20条裁判で戦っている。正社員同様の職務に対しては、同等としなくてはならないという、20条で裁判を闘っている。正社員が当たり前の社会、20条裁判を戦い、この練馬からも非正規をなくす郵政職場をつくりたい。議案書にある牛井の戦いは労働組合が本気になって運動すれば、職場、生活が守れることが示されている。郵政の職場の中からも労働組合運動を

活性化させていきたい

「子宮頸がん」副作用も薬害…元気だった子どもの苦しみを感じて

《健康文化会医療労組 千田恵美子さん》

子宮頸がんワクチンは2年前、任意から定期接種となり無料で受けられるようになる。副作用を心配する声もあったが、半強制的に接種した。ところがどんなでもない副作用が起きている。ワクチンによる自己免疫疾患が起り、痛み、震え、記憶障害などいろいろな症状を引き起こしている。厚労省へ訴えたが、副作用を認めない。ワクチンを進める検討委員のほとんどが企業から献金を受けているため、接種ありきとなっている。ワクチンによって人生を奪われた何万の子供が物言えず、訴えも出来ず苦しんでいる。安倍の成長戦略は薬を狙っている。ワクチンは企業にとって儲かる。だからこそ、厚労省は厳しく取り締まるべき、副作用も認めていない。隠れたところで若い子や親の苦しみ思いを感じて欲しい。



13 地域で支部結成毎年 100 人増勢…増加する労働相談

《CU東京練馬支部 伊藤悦子さん》

特徴は地域を基礎とした組織で、現在13地域で支部が結成され、毎年100人前後が増勢している。労働者組合を持たない労働者の拠り所となっている。練馬労連に寄せられた労働相談は10



件で内2人がCUに加入し問題解決にあたった。方針にもある練馬労連の拡大にはCU練馬の拡大が重要となる。資金面、争議支援、労連相談 当該労働者の自立を支えるために、二重加盟の力が必要。労働者の権利を奪う労働法制改悪に反対する練馬連絡会への参加を。練馬地域から改悪反対の大きな運動を作って行きましょ

伊豆大島の旅…災害から1年、復興へ島民一丸で



(練馬労連 副議長 千田恵美子記…その1) 練馬労連の平和ツアーで、9/27、9/28 伊豆大島へ行きました。

昨年の土砂災害からもうすぐ1年になります。被災地に行き惨状を見学し、亡くなられた方への追悼、献花。そして復興に向けての取り組みを学び、大島町長さんと面会して直接お話を聞く。また地元の方の案内で大島巡りという企画です。26名の参加でした。

土砂災害

20013/10/16、大島は三原山斜面の大崩落という思いもよらない災害に見舞われました。1時間に122ml(24時間で824ml)の記録的集中豪雨で、流



れる土砂、雨水、流木で住民は家ごと流されました。夜中の2時の出来事です。誰も見ることのできなかつた、あつと言う間の火山との複合災害でした。36名の方が亡くなられ、未だ行方不明者3名が土砂と瓦礫に埋まったままです。家屋の被害は全壊71軒を含め385か所に及びました。

島民にとって「雨」は「大島の豊かな自然をはぐくみ、人

の暮らしを支える大切なもの」でしたが一瞬にして根底からくつがえされてしまいました。町長はジオパークなどの重要な会議に出席の為、また副町長も年に2回の重要な会議出席の為、大島にはいませんでした。

地元の人でも専門家も想定できなかった災害でしたが、大島町が「避難勧告の支持」を出さなかつたことに非難が集まりました。

復興への取り組み

マスコミによる心無い、悪意に満ちた町長避難の中で、町民は自ら立ち上がり「復興町民会議」を作り、島の生活再建計画を立てるために会合を重ねました。そして行政と専門家も加わり「大島町復興計画」が出来上がりました。

町民20名を含む50名で、7か月の間に40回もの会議を開き町民と行政が一つになって10年計画が作りました。大島の自然を壊さず、自然災害から島民を守る計画です。これから都や国の支援を受けて具体化していきます。



川島理史(まさふみ) 大島町長のお話し

町長と面会することができました。「36名の犠牲者と3人が見つからないことをずっと背負てる。マスコミによる悪意に満ちた非難の中で反省とつらさの繰り返しだった。来月で1年になる。つらい1年だった。再建に向けて町に寄せられた義援金は公平性を確保しながら活用していく。また町民と行政とで復興計画を作った。」と話されました。そして私たちに「こうやって来てくれることは、大きな力になる。」と感謝してくださいました。(つづく)

《練馬労連・関係の予定》

○ビキニ事件60周年「大石又七さん講演会」11月8日(土)13時～ココネリホール 500円

○「練馬～浪江 復興支援交流ツアー」11月23日(日)～24日(月・祝) 福島県二本松市
参加費 12000円(宿泊費+夕食代)

○練馬区民集会 11月28日(金)午後6時半～ 練馬生涯学習センター(旧 練馬公民館)

○練馬教育集会 12月5日(金) ココネリホール

○第7回 無料なんでも相談会 12月19日(金) 午前10時～ 練馬つつじ公園

○第一回四役会議 11月13日(木)19:00～労連 ○第一回常任幹事会 11月20日(木)18:30～労連

